



# 県環保衛連



県連HP

第25号

発行日 令和5年3月31日  
発行者 富山県環境保健衛生連合会 会長 五十嵐 務

題字 五十嵐 務

## 第67回 富山県環境保健衛生大会



歓迎レセプション 源多良太鼓保存会



五十嵐会長挨拶



有賀厚生部長



角田高岡市長



県知事表彰



会長表彰



会長感謝状



小中学生 ポスター・壁新聞表彰

## 第67回富山県環境保健衛生大会開く

「環境にやさしく、健康は生活習慣から」をスローガンに富山県環境保健衛生大会が、令和4年10月29日（土）午後1時15分より高岡市の富山県高岡文化ホールで開催された。

初めに五十嵐務富山県環境保健衛生連合会長の開会の挨拶（別掲）があった。続いて富山県知事（知事代理・有賀玲子厚生部長）の挨拶があり、次に地元開催市である角田悠紀高岡市長から歓迎の挨拶があった。

表彰式では、県知事表彰として、永年環境保健衛生に尽力された個人4氏と1団体の表彰があった。

次いで環境保健衛生連合会長表彰として、個人の部9名、団体の部8団体の表彰があった。また永年に亘り連合会の役員を務められた2氏に感謝状が贈られた。小中学生から応募のあった「地球温暖化防止活動に関する優秀壁新聞・ポスター」の部では、壁新聞の部で9名の小学生、ポスターの部で15名の小・中学生の表彰があった。

表彰式の最後に受賞者を代表して高岡市の斉藤篤氏の謝辞があった。

次に来賓から渡辺守人富山県議会議長、坂林永喜高岡市議会議長の祝辞があった。

休憩をはさんで、「生活習慣病対策で健康寿命を延ばそう！ ～日常生活からの取組みについて～」と題して、医療法人ホスピイー・統合医療研究所の許鳳浩先生の講演があった。（要旨別掲）

続いて「食品ロス削減及び海洋プラスチック対策について」エコライフを楽しむ市民の会高岡からの活動発表があった。（要旨別掲）

終わりに大会宣言案が駒井義次高岡市環境保健衛生協会副会長から提案され満場一致で承認された。

続いて林信義高岡市環境保健衛生協会会長から閉会の挨拶があり散会した。

なお、次年度の開催は魚津市となった。

県連合会では、令和2年度より事業計画にSDGsの視点を明示し、活動を始めてきた。

SDGsは、2015年9月の国連サミットで採択

された持続可能な開発目標で、そのゴール14「海の豊かさを守る」の達成にむけて、重点事業として「美しい富山湾の保全活動」推進に取り組んでいる。「みんなきれいにせんまいけ大作戦」や地域での清掃活動は、ごみの海への流出を防ぎ、美しい富山湾の保全活動に大きくつながっている。今年6月末に環境巡視員等研修会（県東部）を岩瀬浜で開催し、ごみ拾いをスポーツとして行う「Spogomi」の体験研修会を開催した。

保健衛生の面では、SDGsゴール3「すべての人に健康と福祉を」に関連し、健康寿命の延伸の取組みを進めている。一昨年度より、人生百年時代に向けて介護予防のフレイル対策の推進を掲げている。フレイル対策には、「体力・栄養・社会参加の推進」の3点が大切であるといわれており、今年度は8月末に開催した健康部会研修会で、富山県の健康課題でもある「野菜の摂取量と減塩」に配慮したメニュー「健食」の調理研修会を実施した。

各市町村事業で実施されているウォーキング教室や減塩の推進、野菜の摂取量を増やす活動などは、まさにフレイル対策になっており、我々の活動の活性化がフレイル対策の一層の推進、SDGsの推進に大きな役割を担っていると言える。



### 「講演」

～日常生活からの取組みについて～  
講師 医療法人ホスピイー・統合医療研究所

許鳳浩 先生

「健康寿命の延伸」が国をあげての健康課題であり、予防につながる生活習慣病対策について講演があった。非感染性疾患の死亡数の3大原因（遠因）として挙げられる喫煙、高血圧、運動不足に注目するよう前置きされた上で、「運動・食事・タバコ・飲食・睡眠・精神衛生・歯の健康」の7項目を生活習慣病対策のかなめとして挙げ、日常生活における実践の留意点について説明された。

特に「メンタルと健康」の対策では、免疫力の低下を防ぐために

- ①適度な（自分に合う）運動
- ②ポジティブシンキング

③からだを温めること ④合理的な食事（食べ方、選び方）が必要であること等について述べられた。

許先生の伝統医学（中国・インド医学など）を背景とした講義は、わかりやすく、日常生活を振り返り、うなずきながら話を伺った。



### 「活動発表」

「食品ロス削減及び海洋プラスチック対策について」発表者 エコライフを楽しむ市民の会高岡  
当会では、エコ活動の実践や、環境にやさしく無駄のない暮らしを目指して活動中。近年特に力を入れている次の2点について紹介。

【食品ロス削減～フードドライブの実施～】  
家庭で使いきれない食品を集め、必要とする福祉団体に寄付する「フードドライブ」を実施している。平成30年度に市内では初の取組みとして始め、徐々に市民の方々に浸透し、令和3年度はスーパーとの連携により3398点の食品があつまった。

消費者自身が必要な量を見極めることはもとより、自分で消費しきれない場合は、フードドライブの活動を推進している。

【海洋プラスチック対策～砂ふるい「プラネット」の製作～】  
砂に混じった細かなプラスチックごみ等を効率的にふるいに分けるため、農家で不用になったもみ殻ネットをリメイクした砂ふるい「プラネット」を製作している。「プラネット」は愛称で、海洋プラスチックごみの回収に便利なネットの略。一般の方への貸出も行っており、ぜひ活用を。



フードドライブ寄付受付



フードドライブの贈呈式



プラネットによる海岸清掃



砂ふるい「プラネット」

# 表彰

## 第67回 富山県環境保健衛生大会

日時 令和4年10月29日(土)

会場 富山県高岡文化ホール 大ホール

### 富山県知事表彰(厚生部門功労)

個人 浅生 修 魚津市環境保健衛生協会理事

竹内 隆 高岡市環境保健衛生協会常任理事

村上 公生 富山県環境保健衛生協会副会長

飯原 榮 小矢部市環境保健衛生協会副会長

団体 西条校下環境保健衛生協議会(高岡市)

### 県連会長感謝状

前副会長 松丘 弘光 射水市環境保健衛生協議会

前理事 宮田 赳 富山県環境保健衛生協会

### 県連会長表彰

個人

藤井信一郎(富山市) 森 重之(富山市)

高野 秀夫(富山市) 大角 修一(高岡市)

鍋谷 秀治(高岡市) 在田 誠一(高岡市)

北 陸夫(高岡市) 山田 憲治(高岡市)

新中 勉(射水市) 沢辺 明雄(射水市)

池口久美子(水見市) 池田登志子(水見市)

松井志津子(砺波市) 敷波 恵子(南砺市)

篠原 澄子(南砺市) 川上 芳美(南砺市)

勇崎 勇(南砺市) 白沢 富治(小矢部市)

### 団体

打出町内会 (富山市)

立野地区環境保健衛生協議会 (高岡市)

石堤地区環境保健衛生協議会 (高岡市)

野町町内会 (滑川市)

柳田長寿会 (水見市)

水見市健康づくりボランティア連絡協議会 教田地区 (水見市)

福野西部寿会 (南砺市)

福野南部第四福寿会 (南砺市)

### 富山県食品ロス・食品廃棄物削減優良活動表彰

射水市環境衛生協議会

日時 令和4年10月11日(火)  
会場 県民会館バンケットホール

## ○全国大会表彰 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰

第66回生活と環境全国大会

日時 令和4年10月25日(火)

会場 千葉市 幕張メッセ

生活環境改善功労者 能村 弘(小矢部市)

蔵 伊佐夫(高岡市)

麦島 紀長(富山市)

## 第2回 健康部会研修会

日時 令和4年11月13日(日) 10時30分～13時30分

場所 富山市婦中ふれあい館

参加者 健康部会部員・理事32名

講師 医療法人ホスピイー・統合医療研究所

演題 「冬の健康管理とランチセミナー」

内容 許 鳳浩 先生

### 体質・メンタル面を強化し、病気を防ぐ

人間の体温は36.5～37℃が免疫力が旺盛な健康状態で、わずか0.5℃下がると排泄機能、代謝機能が低下する。体温が1℃下がると免疫力が37%低下し、風邪や色々な病気にかかりやすく、治りにくくなる。35℃はがん細胞が最も増殖する温度で約40～43℃で死滅する。

現代人の体温はだんだん下ってきているので健康体を維持するには、血行をよくすること。

まず身体を温めることとバランスのとれた食事を心がけること。

身体を温めるには入浴が一番。高血圧が急に上昇することから心筋梗塞予防のため、水分をしっかりとること、脱衣所を暖かくすることが大事。

また、規則正しい食生活をし、体の温まる食品を摂ること。肉や魚などの動物性たんぱく質のほかにシヨウガ、ネギ、ゴボウ、人参、山芋などの根菜類、果物等バランスよく摂ること。



他に、水を多く摂りすぎると余分な水分が体内を冷やし、各臓器の働きが低下してかえって新陳代謝ができなくなるので水の摂り過ぎに注意。この後、薬膳弁当の説明があり、弁当を食べながら講話を聞いた。

## 第2回 環境専門部会研修会

日時 11月30日(水) 10時～11時30分

場所 県民会館509号室

参加者 25名

研修会テーマ「地球温暖化と富山県の気候変動」

講師 富山地方気象台気象情報官 大江 幸治氏  
当日は、大江講師が職場でのコロナの関係で急遽ズームによるウェブ研修会になった。

地球温暖化による影響で夏の猛暑、大雨による洪水、土砂災害、大雪等の被害が全国で又、富山県でも起きているように思われる。そのメカニズムなどがよく分からないので、参加者は、最後までたくさんデータの説明を受けながら、真剣に地球温暖化について考えさせられた。



### ◎富山県の状況

・真夏日、猛暑日、日最低気温25℃以上の年間日数

(いずれも増加傾向)

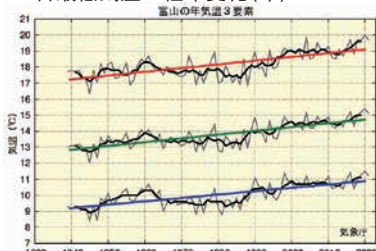
・真冬日、冬日、日平均気温0℃未満の年間日数

(いずれも減少傾向)

・さくら開花日は10年あたり16日早くなっている。

・かえて紅葉日は10年あたり26日遅くなっている。

富山の日平均気温、日最高気温、日最低気温の経年変化(年)



# 表彰

## 叙勲 旭日单光章

令和4年度秋の叙勲で本会専務理事・副会長 浦出義一氏が受章された。

11月4日に県庁で伝達式が行われた。

氏は、平成13年に福野町保健衛生協議会理事に就任後、同会長、大砺波圏保健協議会長、南砺市環境保健協議会長、富山県環境保健衛生連合会理事、常任理事、副会長、専務理事を歴任された。約20年に及ぶ活動が評価された。



副会長、専務理事を歴任された。約20年に及ぶ活動が評価された。

## みんなできれいにせんまいけ大作戦 ーコロナ禍に負けずー

今年度の「みんなできれいにせんまいけ大作戦」は、6月から9月に全15市町村で実施された。コロナ禍の中、3万人ほどの参加があった。

お陰で富山県が本場にきれいになりました。ありがとうございます。



7月31日 魚津市鴨川一斉清掃



7月17日 立山町クリーン作戦(利田地区)

## 三世代環境衛生活動モデル事業

実施団体名 栲山三三區一家庭」活動報告  
事業の目的 ねらい  
栲山三三區では地域の人がまるでひとつの家庭であるかのように関わり合いながら生活している。その中で、男女・世代に関係なく、地区の農園で野菜を生産し消費することや、餅つきを行い食品を加工することなどの様々なイベントを通じて食品のありがたみを再認識し、各家庭での食品ロス削減を図る。

## 事業の概要

① さつま芋掘り (三三區農園)

令和4年10月23日

事業主体 栲山三三區環境保全委員会

参加者18名 (子ども5名)

② 餃子作り (三三區公民館)

令和4年12月11日

事業主体 栲山三三區蘭の会

参加者15名 (子ども4名)

③ 餅つき (三三區公民館)

令和4年12月30日

事業主体 栲山三三區交友会

参加者23名 (子ども6名)

## 事業の内容

使われなくなった農園を借り、さつま芋・里芋・ネギ・玉葱・生姜を植えている。農家の方から作り方を習い、家族で汗を流して栽培し、最終的に収穫祭を公民館で行い、芋煮を作って食べた。餃子作り名人のお婆ちゃんを講師に、2種類の餃子を作って家に持ち帰って家族で食べた。希望する家の正月餅を臼と杵で餅つきした。あんこ、きな粉、ごま、大根おろしなど、その場で美味しく食べた。



餅つき



餃子作り



さつま芋掘り

## 参加者の感想

(小学生)

みんなでワイワイ笑いながら、楽しく汗をかいている。農家の作業をするのは気持ちよかったです。特に農園で自分たちが作った作物をもらえるのが嬉しかったです。おいしかったです。この活動に参加することで、食べ物を粗末にすることのないようにしようと思った。

(保護者)

イベント時に様々な作業をしている際、お年寄りから食品のありがたさ以外にも、色々な話を聞かせてもらうことなど、子ども達が家族以外の大人と話す機会は大変貴重な時間であると感じた。事業の成果課題  
この事業を通じて、「食べ物を粗末にしない」という食品ロス削減につながる心を育むことができた。

課題は、小中学生は習い事や部活等で忙しく、土日の行事になかなか参加しにくい状況であること。

## 出前健康講座 (富山市五番町環境保健衛生連合会)

県連合会では、昨年度より希望される地区に出向いて健康講座を実施する「出前健康講座」を始め、今年度は、富山市の五番町地区で開催された。

期日 令和4年11月27日(日)

会場 富山市五番町公民館

参加者 20名

講師 許 鳳浩氏 (医療法人ホスピ

イー・統合医療研究所)

講義 「寒さに負けない健康法」

・入浴、食事法について

・高齢者に適した運動「八段錦」について

・薬膳弁当の食材の効能について

参加者は、コロナのため、準備された薬膳弁当と八段錦のDVDを受け取り帰宅された。

※当連合会では、「出前健康講座」を各市町村に出向いて実施しています。(講師謝礼無料)

申込み・問合せは、県連事務局(080-8698-5685)まで。

令和5年度は、2地区募集。



八段錦の実技



講義の風景

## 編集後記

令和4年度の会報をお読みいただき有難うございます。一年間様々な方々と出会い、たくさんのご意見をいただきながら作成できたことは大きな財産だと感じています。さて、令和4年はウクライナ侵襲、新型コロナウイルス等々の出来事が印象的であり、ここ数年は「いつも」の生活を継続することがたいへん難しい時代になったのかなと思います。

一方で、新型コロナウイルス感染症が指定感染症から第5類への見直しの情報も流れるなか、困難に直面したからこそ、創意工夫された新たな方法により、様々な地域で活動が実践されていることや、コロナ前の「いつも」に近づくように活動が再開されている多数の地域があり、地域の力強さを本会報の編集を通して実感しています。結びになりますが、新しい年度が皆様方のご健康と「生活を衛る」保健衛生活動がより一層活発になることを祈念し編集後記といたします。

追伸 10月末に東部ふれあいフェスタ(富山市東部校下環境保健衛生連合主催)を開催する予定ですので、是非ともご来場お待ちしております！ (村上記)